

NEWS RELEASE

金属工芸の煌びやかな金銀の装飾や華麗な文様を間近に味わう
特別展「建国 1100 年 高麗—金属工芸の輝きと信仰—」
 ～一千年を経て輝きつづける信仰の美～

近鉄グループの文化事業である大和文華館では、2018年10月6日（土）から11月11日（日）まで、特別展「建国 1100 年 高麗—金属工芸の輝きと信仰—」を開催いたしております。

高麗（918—1392年）は、朝鮮半島の歴史の中でも文化・美術において成熟した時代といえます。中国・北宋時代に、徐兢は使節団の一人として高麗に赴き、首都開城に滞在した際の見聞や自らの感想を記した『宣和奉使高麗図経』を帰国後に皇帝に上奏しています。その中では、高麗の螺鈿漆器や青磁が「極精巧」「細密可貴」「色沢尤佳」と称され、技術の高さと美しさが認められていたことがうかがえます。そして一千年以上経た今なお、仏教への篤い信仰を背景に生み出された仏画、金属工芸、螺鈿漆器、「翡色」と謳われた清らかな色合いの青磁に見られる精緻な造形は、人々の心を惹きつける輝きを放っています。

朝鮮半島での金属工芸の歴史の中で、仏教を篤く崇拝した統一新羅とともに、高麗時代には金属を用いた仏教文物が盛んに制作され、その制作背景には、国の安泰への願いや、個人の信仰などの切実な祈りが籠められています。これらには金や銀といった貴重な材質が豊かに用いられて厳かかつ煌びやかに荘厳され、王侯貴族を中心として花開いた文化を鮮やかに反映しています。

本展覧会は、仏龕や舍利容器などの仏具、梵鐘、匙や箸などの飲食器、装身具、鏡など、信仰や生活、装飾といった多様な用途を反映する金属工芸作品に焦点をあて、高麗時代の製作技術や美意識、文化に迫ろうとするものです。高麗は日本や呉越国、北宋、元などと交流を持っており、金工作品からはこのような文化交流の軌跡をもうかがうことができます。高麗が建国した918年から1100年を迎える2018年に高麗の金属工芸の魅力に注目する展覧会です。

詳細は別紙のとおりです。



「銀製鍍金観音菩薩・毘沙門天像小仏龕」 「鉄地金銀象嵌鏡架」 「高麗唐草文鏡」
 （東京国立博物館 Image : TNM Image Archives）（愛知県美術館 [木村定三コレクション]）（京都国立博物館）

別紙

<1> 特別企画展について

1. 名称 特別展「建国1100年 高麗^{こうらい}—金属工芸の輝きと信仰—」
2. 会期 2018年10月6日(土)～11月11日(日)
3. 開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時まで)
4. 入館料 一般930円、高校・大学生720円 小学・中学生 無料
5. 主催 大和文華館
6. 出陳品数 92件

代表的な展示作品 ※所載表記のないものは大和文華館所蔵。

◎重要文化財 ○重要美術品

【第一章 花開く高麗の文化】

- 石造如来坐像 大和文華館
- 青磁象嵌花文合子 大和文華館
- 大方広仏華嚴経 卷第四 徳川美術館
- 大方広仏華嚴経 卷第三十五・三十六 大和文華館

【第二章 信仰の美—舍利容器の系譜】

- 金銅飛天形飾金具 統一新羅時代 大和文華館
- 金銅円筒形舍利容器 統一新羅時代 東京国立博物館

【第三章 信仰の美—高麗の荘厳具・梵鐘】

- 銀製鍍金観音菩薩・毘沙門天像小仏龕 東京国立博物館
- 銀製層塔形舍利容器及び金製内容器 奈良国立博物館
- 金銅八角舍利容器 「至治三年」(1323)銘 高麗美術館
- 金銅五鈷鈴 大和文華館
- 銅製銀象嵌柳水禽文浄瓶 大和文華館
- 銅製銀象嵌蒲柳水禽文浄瓶 泉屋博古館
- 青銅銀象嵌梵字宝相華唐草文香炉 根津美術館
- ◎梵鐘 「峻豊四年」(963)銘 広島・照蓮寺
- ◎梵鐘 「太平十二年」(1032)銘 滋賀・園城寺
- 梵鐘 「明唱七年」(1196)銘 東京国立博物館
- 梵鐘 「貞右[祐]十三年」(1225)銘 高麗美術館
- 金鼓 「崇慶二年(1213)甲戌(1214)」銘 東京国立博物館

【第四章 装いの美—装身具・鏡・飲食器】

- 金銅粧刀鞘 大阪市立東洋陶磁美術館
- 金製蓮に亀文装飾具 東京国立博物館
- 鉄地金銀象嵌鏡架 愛知県美術館(木村定三コレクション)
- 高麗唐草文鏡 京都国立博物館
- 銅製匙・箸 佐賀県立名護屋城博物館

<2> 特別展会期中のイベントについて

1. 講演会「韓国で新たに出土した金工品の現況と特徴」

- (1) 日時・場所 2018年10月28日(日) 午後2時から講堂にて
- (2) 講師 韓国・東国大学校美術史学科教授 崔應天氏

2. 日曜美術講座「高麗の祈りの美」

- (1) 日時・場所 10月21日(日) 午後2時から講堂にて
- (2) 講師 大和文華館 学芸部係長 瀧朝子

3. 文華苑講座「日本庭園の現場から」

- (1) 日時・場所 11月4日(日) 午後2時から講堂にて
- (2) 講師 庭舎 MAKIOKA 代表・庭職人 牧岡一生氏

4. 列品解説

- (1) 日時・場所 毎週土曜日午後2時から展示場にて
- (2) 解説 大和文華館 学芸部

何れのイベントも参加は無料ですが、入館料が必要です。

以 上